

第8回 TOMO-KEN 開催!

～友に学ぶ・共に学ぶ～

10月8日(土)～9日(日)に「TOMO-KEN (青年教育実践交流集会)」が日本教育会館において開催されました。

「TOMO-KEN」とは、様々な職種、校種、雇用形態の青年教職員がお互いの状況、悩み、経験を共有し、課題解決に向かって議論します。今回は全国から260名以上の先生方が参加し、福井県からは実行委員、司会者を含めて5名が参加しました。



分科会では、6つのテーマで22のグループに分かれて討論を行いました。分科会は2日間で合わせて7時間に及ぶものでした。日頃の実践を発表し合うだけでなく、他県の状況や福井県との違いも知ることができたと思います。また成果だけでなく悩み等も交流できる場であり、大変有意義な時間となりました。

参加者の感想

来年度も開催予定ですので、
青年部の教職員の参加をお待ち
しています。



私のいたグループは、小・中・高の先生が参加され、支援を必要とする子どもたちの話をしました。私も含め小学校で働く先生方は、そのような子どもたちが中・高校生になったときの様子を知ることができ、小学校から支援を行うことの重要性、有用さを改めて感じました。また、中・高の先生方は小学校でも支援を行っているということを知ってくださったようです。また、子どもとの関わり方ですぐにでも実践できることを共有することができ、やってみようと思いました。とても有意義な2日間で、参加してよかったと思いました。

私のグループでは主に「差別意識」について意見を交わしました。「障がいを持つ人が、障がいを感じられないほど、地域社会の中で自然に生きることができる世の中になれば、学校と家庭の連携も取りやすくなるのでは」「学級の中でできることは、『いろいろな子がいて当たり前』という意識を子どもたちに持たせること」といった意見が出ました。

一人ひとりが自己肯定感を持てる学級作り、そして互いを自然に認め合える心の育成、という大切な責務が私たち教員にあるんだということを改めて感じました。